

## ナイトラン (東工大〜東金)

### 名取 誠

11月2日夜、ナイトラン参加メンバーは、奇室に集った。各自、食卓とすまじ、持っていく食料を買ったり、準備を整える。天気はよさそうだし、予想していたよりは寒くはないし、まがりがいいサイクリングが期待できそうであった。そして、奇室前で記念写真をとるといよいよ東金めざして出発。自転車がライトをつけて走る列はまがりがみごとである。まず、東工大を出て中層街道を都心をめざして進む。このあたりではまた自動車も多く信号にもぶつかることが多く、自転車の列はとぎれがちになり、都心をぬけるまでは道は複雑で、危くぬくしょうことも考えらるるのでバラバラに走って走ることできます。まがりが思うように走れなかった。また、走り出したばかりであったが、早くも先が心配された。

しかし、五反田を過ぎたあたりから自動車は減ってきた。それに、信号も適当に無視するようになってきたので、たんたんとしてスピードが上がってきた。そして、確か麻布あたりだったと思うが、片側三

車線か四車線の道路をスピードを上げて走っていると、一時自動車の姿が見えなくなった。つまり、進行方向へ走る自動車も反対方向へ走る自動車も、はるかに遠くに見えるだけなのである。そこで、僕は道路の端を走る必要はないと思い、道路の真中を走ったり、蛇行運転をした。それはほんの数分間だったと思う。すもなく、自動車が来てもどのように走らざるをえなくなった。ところが、それから少し走ったところで交番の警官に呼び止められてしまった。初めのうちは、なぜ呼び止められたのかわからなかったが、話を聞いてみると、とうやら僕らが走っているのを、たっぶり前から見ていたらしいかった。確かに振り返って見ると、それは見通しのより所で、僕らがたっぶり走り方をしていた所までよく見えた。これは、たっぶり説教されるかと思っただ、たっぶりして怒られずに、行先を聞かれるぐらいですみすぐに走りたすことができた。そして、東京列を横目に見て、やがて国会議事堂の前に出た。ここでも地図を広げて相談していると、警官に声をかけられ、早くとりてほしいと言われ

たので、少し休んですぐに出発した。そして皇居につきあたり、日本橋を至て、なんとか都心をぬけることができた。

都心をぬけてからは、実に快調で、たまに少し休む以外はほとんどノンストップでとばした。なにしろ、前方には自動車、人さす障害になるものはほとんどなく、まわりの風景は暗くてほとんどわからずりので、前の自転車を見て、ひたすら走るのみである。スピードもかなりでていたと思う。しかし、千葉を過ぎ、東金に近づいたころからさすがに疲れがどってきたのが、眠くなったのが、心もスピードが落ちたようであった。そして、東金を過ぎたあたりから周囲がだんだんと明るくなりはじめた。東金を過ぎれば、めざす片貝海岸は、もう目と鼻の先である。必死でペダルをこいで、や、と目の出の少し前に片貝海岸に着いた。残念ながらその日は東の方角には雲がでており、期待していた日の出は見ることはできなかったが、全質無事故で走ることができ今回のナイトランの目的はほぼ達成できたと思う。